

講義科目名称	英語学研究IV	副題	English Phonetics & Phonology
英文科目名称	English Linguistics Studies IV		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
小笠原 奈保美			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要) この授業では、英語音声学（特に調音音声学）・音韻論の基本的概念について学んでいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーションなどの韻律構造について学ぶ。また、英語以外のさまざまな言語の音体系と英語の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比較音声学の観点から考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。

授業の目的 このコースは、英語音声学・音韻論の専門的な知識の修得を主な目的とする。これらの知識を応用して、受講者の英語コミュニケーションや英語教授の実践に役立ててもらいたい。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に貢献している。

到達目標 反転授業や受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、英語音声学・音韻論について深く学び、専門知識を身につけることができる。また、レポートやクラス内での発表を通して、論理的思考力や課題を見つけ出す力をつけることができる。

授業計画	第1回	Introduction, Ch 1: Spelling and Pronunciation
		この授業では、英語音声学（特に調音音声学）・音韻論の基本的概念について学んでいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーションなどの韻律構造について学ぶ。また、英語以外のさまざまな言語の音体系と英語の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比較音声学の観点から考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。
	第2回	Ch 2: Individual Sounds of English (consonants)
		子音を特徴づける3要素（人間の調音器官、声道内の空気の流れ方、声帯振動）を中心にテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）
	第3回	Ch 2: Individual Sounds of English (vowels)
		母音を特徴づける4要素（口腔内での舌の位置、舌の盛り上がり方、円唇化、口周りの筋力の緊張）を中心にテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）
	第4回	Ch 3: English Sounds in Context
		個別の英語の音が単語の中で周りの音に影響されてどのように変化するか、調音結合のメカニズムについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）
	第5回	Ch 4: The Shape of English Words
		発音、聞き取りの単位である英語の音節構造についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）
	第6回	Ch 5: Word Stress and Vowel Reduction
		日本語にはない英語のストレスの仕組みと母音の弱体化についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）
	第7回	Ch 6: Connected Speech
		句や文章単位で発音するときには注意すべき英語の韻律（リズム、文ストレス、イントネーション）、リンキング、音の消去や同化についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）
	第8回	Review
	これまで学んだことをレビューし、疑問点や十分議論がなされていない事柄について学生相互で議論し、その後教員を含めてクラス全体で議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	
第9回	レポート発表	
	これまで学んだことで、特に関心があることについてレポートにまとめてもらい、それを発表してもらう。また、その内容について、受講者同志や教員を含めて授業で議論していく。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	
第10回	Ch 7: Common Pronunciation Problems	
	ノンネイティブ話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、英語の音声・韻律構造から考える。テキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	
第11回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (Arabic, Farsi, Greek)	
	アラビア語、ペルシア語、ギリシア語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容を受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	
第12回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (Chinese, Korean, Vietnamese)	
	中国語、韓国語、ベトナム語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容を受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	
第13回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (French, Italian, Portuguese, Spanish)	
	フランス語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容を受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	
第14回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (German, Hindi & Punjabi, Polish)	
	ドイツ語、ヒンドゥー語・パンジャビ語、ポーランド語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容を受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	
第15回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (Japanese)	
	日本語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容を受講生が自分で調べた日本語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。（双方向または多方向に行われる議論を伴う授業）	

テキスト Peter Avery & Susan Ehrlich, 『Teaching American English Pronunciation』 Oxford Handbooks for Language Teachers, Oxford University Press. ISBN: 9780194328159

テキスト購入方法	各自で購入すること。
参考文献	Peter Ladefoged, 『A Course in Phonetics, 5th ed.』 Thomson Wadsworth. ISBN: 9781413020793, 『ビジュアル音声学』川原繁人著 三省堂 ISBN: 9784385365329
成績評価の方法	テキストのプレゼンテーション50%、レポート（プレゼンテーション含む）50%
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。または、email, Google Classroomを通して連絡する。
履修上の注意	英語で授業を行う。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。 事後学習：授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。